

日本史 B 学習目標



科目：日本史 B
履修：1年
共通
4単位

わが国の歴史の展開を原始・古代からわが国を取りまく国際環境と関わらせ、世界史的観点に立った幅広い視野から学習する。それによってわが国の原始・古代・中世の国家形成の経過や発展について、その歴史的意義や問題・課題についての認識を深める。わが国の歴史的展開について政治・経済・社会・文化・対外関係などの各分野から総合的に考察できるようにし、それによって歴史的思考力を養い、とくに日本文化の特質を考察できる基礎を養成する。

年間授業計画

月	学 習 単 元	学 習 事 項 等
前	4 5	原始時代における日本列島の特質を考える 人類の発生から日本の先土器文化・縄文文化・弥生文化の特質を世界的視野、大陸の状況と関わらせて考察する。石器の発達や土器の発達が生活・社会の発展とどのように関わっているのかを考える。 (20時)
	6 7 9	古代国家の成立とその特質 古代律令国家の発展と特質 日本の国家形成を古墳時代の大和政権の成立から考察する。渡来人の活動・仏教伝来などの大陸文化の流入などを中国・朝鮮などの国際状況や国家形成と関わらせて考察する。 聖徳太子の政治からはじまる律令国家への道筋を社会の発展・政治状況・文化状況などの多角的視点から考察し、律令国家の具体的な姿を考察する。 (23時)
後	10 11	(承前) 古代国家の変質と中世社会への変化 平安初期における律令国家の変質、摂関政治への動きを荘園制社会の成立など土地制度の変質と関わらせて考察する。国風文化の特質も政治や社会状況と関連させて考察する。
	12 1	武家政治の展開と鎌倉幕府の政治 室町幕府の成立と惣村の成立 平氏政権・鎌倉幕府の成立・執権政治・蒙古襲来などから武家政治の展開や武家社会の特質について考察し、鎌倉文化・仏教の新展開について考察する。(18時) 室町幕府の成立を中世社会の変質から考察する。守護大名の成長、惣村の成立、産業・社会の発展について学習しながら武家文化・庶民文化の形成を考察する。
	2	戦国大名の支配体制 近世社会形成の前提となる戦国時代の政治・経済・社会・文化について考察する。(17時)
講習	夏期休業中の課題として読書課題を課す。	
評価の方法	年4回の定期考査と、授業ノートや読書感想文を評価の材料とする。評価対象となるのは、わが国の歴史を理解する上で重要な政治・経済・社会・文化・体外関係についての客観的な知識と理解の程度、ならびに日本史を真剣に考察しようとする歴史的考察力である。学習成績の評価では、原始・古代・中世の歴史事象や歴史用語を知識として習得したか、それによって日本の国家形成・古代国家・中世国家を客観的に理解できたかが評価のポイントとなる。	



推薦図書・参考書

『岩宿の発見』相沢忠洋著（講談社文庫）
『縄文生活の再現』楠本政助著（ちくま文庫）
『古代史の窓』森 浩一著（新潮文庫）
『聖徳太子』上原和著（講談社学術文庫）
『古代史への旅』黒岩重吾著（講談社文庫）
『日本史の虚像と実像』和歌森太郎著（河出文庫）
『日本史B用語集』（山川出版社）は3年生になっても使用するので便利である。